

目指す学校像	・児童が生き生きと活動する学校 ・地域とともに歩む学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 児童が自己肯定感を高め、自分から進んで学ぶ授業の充実 2 安心感のある学校づくりと児童が自分の安全への意識を高める安全指導の継続 3 コミュニティスクールの仕組みを生かした、地域や保護者の信頼にこたえる学校づくり 4 個々の力を発揮し、向上させる教職員研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学 校 運 営 協 議 会 による 評 価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実 施 日 令 和 6 年 2 月 2 1 日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○本校実施の教育に関するアンケートで「学習にやる気をもって取り組んでいる」の質問に肯定的な回答をした割合が8割を超えている。 ○自校テストで漢字・計算の習得率が8割を超えている。 〈課題〉 ○児童が自ら考えて行動したり主体的に学習に取り組んだりするなかで、達成感や充実感を味わえるようにすることが課題である。 ○自分の考えを表現することに苦手意識を感じている児童が一定数おり、互いの考えを認め合うなかで、自己肯定感を高め、自信をもって学習に取り組めるようにすることが課題である。	・児童が思考・判断・表現力を培う学習の充実	①さいたま市アクティブラーニング型授業を実施し、ICTを活用した「分かりやすい授業」を推進する。 ②タブレットPCを授業で積極的に活用し、児童が自分から課題を解決しようとする意欲を高める。	①本校実施の教育に関する児童アンケートの「学校は、分かりやすい授業を行っている」の質問に肯定的な回答をした割合が9割を上回ったか。 ②教職員がタブレットPCを積極的に活用した授業を展開し、児童が意欲的にタブレットPCを学習に活用できたか。	①本校実施の教育に関するアンケートの「学校は、分かりやすい授業を行っている」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は93%と、9割を上回った。 ②11月に実施した「学びの指標」の集計結果から、ICTに関連する項目の数値の平均値が3.2となっている。その項目の中で教職員が授業で活用、児童本人が個人で使用に抽出すると平均値は3.5と高い数値となる。	A	①児童の肯定的な回答をした割合は92%、保護者が95%、教職員は92%であった。高い肯定的な回答の割合に満足することなく、これからも「分かりやすい授業」を意識して行っていく。 ②平均値を出した中の項目で数値が低いのは、協働作業に関するもので2.6であった。特に低学年において数値が低いので、使って意義のある効果的な活用方法を模索していく。	・基本的には、学校自己評価に準じて問題ないと思う。 ・ICTの協働作業について、低学年での数値が低いのは、まだその作業をする実態ではないので仕方がない。 ・ICT活用を推進するとともに、書く活動についても充実を図ってほしい。
		・児童が自己肯定感を高める校内研修の充実	①クラス会議やきらめきメール等の活動を通して、互いに認め合い安心感のある学校づくりを進める。 ②児童の意欲換気のため、「勇気づけ」の意識を教職員がもち、積極的に称賛や励ましの言葉掛けを行う。	○本校実施の教育に関するアンケート「先生から称賛や励ましの言葉掛けが行われている」の質問に肯定的な回答をした割合が9割を上回ったか。	○本校実施の教育に関するアンケート「先生から称賛や励ましの言葉掛けが行われている」の質問に肯定的な回答をした割合が88.6%と、9割をやや下回った。	A	○児童、保護者、教職員の該当項目の平均は88.6%であったが、児童、保護者からの肯定的な割合が教職員よりやや低かった。これからも称賛や励ましの言葉掛けを行っていく。	
2	〈現状〉 ○本校の教育に関するアンケートで「学校に楽しく通っている」の質問に肯定的な回答をした児童、保護者の割合は共に9割を上回った。 ○休み時間のけがが多く、校庭の使用の仕方などが十分に浸透していないことで、医療機関の受診につながることもある。 〈課題〉 ○不安感等による登校しぶり傾向にある児童に対し、組織的に支援していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○児童が自分の安全や人々が安全に生活することの大切さを意識できるようにすることが課題である。	・保護者や児童の相談に迅速かつ丁寧に応える校内体制の充実	①保護者や児童からの相談に対し、緊急度0.5の対応として、緊急度1に発展する前に情報の共有化を図り、迅速かつ丁寧な対応が組織的にできるようにする。 ②SAや少人数指導教員を活用し、オンライン授業や別室での学習など個に応じた指導の充実を図る。	①本校実施の教育に関するアンケート「保護者の相談や要望に適切に対応している」の質問に肯定的な回答をした割合が9割を上回ったか。 ②臨機応変にSAや少人数指導を配置し、個に応じた指導の充実につなげることができたか。	①本校実施の教育に関するアンケート「保護者の相談や要望に適切に対応している」の質問に肯定的な回答をした割合が96%と、9割を上回った。 ②臨機応変にSAや少人数指導を配置することで、個に応じた指導の充実につなげることができた。	A	①保護者、教職員の該当項目の平均は96%であったが、保護者からの肯定的な割合は92%となっていた。これからも保護者からの相談や要望に誠意をもって、適切に対応していく。 ②これからも、目の前の児童の理解に努め、「個に応じた指導」を行っていく。	・保護者からの要望にはどのようなものが多いのか。 ・先生方の負担を減らすためにも、どんどんSSWやSCと連携していった方がよい。 ・最近価値観の変化があり、要望が増えている。 ・防犯に関しては、システム上の問題から解決していきたい。
		・児童の事故防止のための安全指導の継続	①毎学期「あおぎりっ子のやくそく」を振り返り、児童が安全に生活するための意識を高める。 ②学期に2回以上、防災や交通安全に関する指導を行い、児童が自分の安全についての意識を高める。	①本校実施の教育に関するアンケート「きまりやルールを守って生活をしている」の質問に肯定的な回答をした割合が9割を上回ったか。 ②本校実施の教育に関するアンケート「交通安全」「防犯・防災」の質問に肯定的な回答をした割合が9割を上回ったか。	①本校実施の教育に関するアンケート「きまりやルールを守って生活をしている」の質問に肯定的な回答をした割合が96.3%と、9割を上回った。 ②本校実施の教育に関するアンケート「交通安全」「防犯・防災」の質問に肯定的な回答をした割合が96.6%と、9割を上回った。	A	①児童、保護者、教職員の該当項目の平均は96.3%であったが、保護者からの数値が94%とやや低かった。これからもきまりやルールを守って生活するよう指導を行っていく。 ②児童、保護者、教職員の該当項目の平均は96.6%であり、それぞれ95%以上の数値だった。これからも交通安全、防犯・防災の指導を行っていく、よりよい方策を考えていく。	
3	〈現状〉 ○学校運営協議会にて児童の様子について情報共有を行い、継続して地域、家庭、学校が連携し、協力し合いながら児童の健全育成を図っていくことを確認した。 ○本校の教育に関するアンケートで「保護者や地域の方々に学校の取組や子どもたちの様子をわかりやすく伝えている」の質問に肯定的な回答の割合が8割を上回った。 〈課題〉 ○大宮小学校運営協議会における熟議の充実を図り、児童に育てたい力を明確にしながら、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動の方針を定める必要がある。	・児童に育てたい力を共有し、実現に向けた方策を定めるための情報発信	①本校のホームページに、新たに学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、広く共有できるようにする。 ②学校行事だけでなく、普段の児童の様子を定期的にホームページにアップし児童の成長に対する関心を高める。	○本校の教育に関するアンケートで「保護者や地域の方々に学校の取組や子どもたちの様子をわかりやすく伝えている」の質問に肯定的な回答の割合が9割を上回ったか。	○本校の教育に関するアンケートで「保護者や地域の方々に学校の取組や子どもたちの様子をわかりやすく伝えている」の質問に肯定的な回答の割合が91%であった。	A	○今年度から、学校Webページが新しくなったことや、各種お便りをWeb上で公開することで、昨年度より肯定的な回答が上回った。PTAとも連携して情報を伝えるツールを増やしていく。	・JRCとも関連してボランティアとは何かという意識をつけたい。おはよう活動をやっていった経緯を考えれば、地域をきれいにする機会がなくなるのであれば昼でも問題はない。 ・駅前もだいきれいになったので、清掃活動の効果を上げるために昼に移行していく方がよい。 ・大宮小トピックスが充実していて、学校の様子がわかってよい。
		・地域に貢献し、地域に関わっていかうとする児童の育成と情報発信	①学校だより等で地域行事への参加を呼びかけ、自分の住む地域の良さを知り、関わっていかうとする態度を育てる。 ②「おはよう活動(駅前清掃活動)」や「募金活動」などを通して、地域に貢献しようとする態度を育てる。	○本校の教育に関するアンケートで「おはよう活動等、他に役立とうとする気持ちや育てるための教育を行っている」の質問に肯定的な回答の割合が児童、保護者共に9割を上回ったか。	○本校の教育に関するアンケートで「おはよう活動等、他に役立とうとする気持ちや育てるための教育を行っている」の質問に肯定的な回答の割合が、87.3%であった。児童、保護者のみに絞ると92.5%であった。	A	○教職員の肯定的な回答が77%となっており、活動時間、内容等の見直し求められる。次年度は朝ではなく昼に同様の活動を行っていく予定である。	
4	〈現状〉 ○ICTの活用方法について、ICT教育推進部を中心に研修を行っている。 ○校内で協働学習の工夫について研修を行っており、話し合い活動を積極的に学習に取り入れている。 〈課題〉 ○教職員のICT機器の活用スキルに差異があり、誰もが学び続けられる職場環境づくりが求められる。 ○ICTを活用した授業実践の研究や事例収集等を行い、教職員間で共有する必要がある。	・児童主体の課題解決学習を通じた「学びに向かう人間性を高める協働学習の工夫」についての校内研修の実施	①エバンジェリストを中心に、ICTを活用した授業に積極的に取り組み、全ての教職員がICTの活用方法について学ぶ研修を実施したり、資料を配付したりする。 ②校内研修を充実させ、教職員が授業を公開し合い、取組を共有し、授業に生かせるようにする。	①全ての教員が、児童主体の課題解決学習を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②学習に関するアンケートで、「自分の考えを表現したり共有したりする時に、学習ソフトを使っている」の質問に肯定的な回答の割合が6割を上回ったか。	①11月に実施した「学びの指標」の集計結果のICTに関連する項目の教職員が授業で活用、平均値は3.5と高い数値であった。ミライシード、Teams等を活用して取り組めていると言える。 ②11月に実施した、「学びの指標」(4~6年対象の質問13)の集計結果では平均値3.2となっており、割合で表すと、8割が肯定的な回答をしている。	A	①全ての教員が日常的にICTを活用する状況にはなっている。児童主体の課題解決学習がより充実するように、指導方法を研究していく。 ②児童全員が使用できる、学習ソフトの効果的な使用方法を教職員でも共有し、指導ができるようにしていく。	・児童のPCの修理は早くなっているのであろうか。 ・教育委員会には全員がもっていることを謳っているのであれば、すぐに代替機を用意するか修理してもらいたい。